

授業科目 生活福祉経済論

科目コード番号

| | | | | |
|-------------------|------|----|-------|----------------|
| 【担当教員名】 青山 三千子 | 対象学年 | 2 | 対象学科 | 理学・作業・言語・栄養・社会 |
| | 開講時期 | 前期 | 必修・選択 | 選択 |
| | 単位数 | 2 | 時間数 | 30 |

【概要及び学習目標】

<概略>

激動する社会の中で、人びとは何を考え何を求めて生活しているのだろうか。不安感に揺れ動く人びとの暮らしと問題点を探り、対策を考えて「健康で文化的な」安定した生活を目指し、ライフプランを立てる必要がある。とりわけそのライフプランの中で、社会保障制度が「生活の安全」を守るセーフティネットの役割を果たし、国民が生活福祉を確立する「権利と責任」を持つための課題を明らかにする。

<学習目標>

- ①国民生活の現状と「生活の安全」を脅かす暮らしの被害を探る。
- ②消費者＝生活者の「安全」「情報」「選択」「意見反映」などの「権利と責任」を考える。
- ③合理的な生活設計に必要な基礎知識を身につける。
- ④生活福祉経済の社会システムを考える。

| 回数 | 学習の主題 | 学習内容 | 学習方法 | | | |
|----------------|-------------------|--|------|-----------------|--|----|
| 1 2 3 | 国民生活の現状と 問題点 | 国民生活の不安の実態、増大する暮らしの被害、とりわけ若者と高齢者の生活トラブルを検討して、社会保障の役割を掘む。 | 講義 | | | |
| 4 5 6 | | | | 消費者の「権利と 責任」 | 消費者の基本的権利と自己責任、「保護」と「自立」、規則緩和と市場主義経済下の暮らしを考える。 | 講義 |
| 7 8 9 | | | | | | |
| 10 11 12 | 豊かな暮らしと社会 システム | 市民運動やNPOの活動を調べ、生活福祉に欠くことのできない地域社会のネットワークと、「自己責任」の環境整備を整える。 | 講義 | | | |
| 13 14 | | | | まとめ | 各自それぞれのライフプランを立て、問題点を指摘する。 | |

【評価方法】

学習活動・学習態度及びレポート

【履修上の留意点】

各自の暮らし方、家族の生活を見つめて課題を主体的に考える

【使用図書】

| 教科書・参考書等 | 書名等 | 著者名 | 発行所 | 発行年・価格・その他 |
|----------------|----------------|----------|----------|---------------------|
| 教科書 | 『暮らしの豆知識』2002 | 国民生活センター | 国民生活センター | 2002年, 450円 |
| 参考書 | 『国民生活白書』2001年版 | 内閣府国民生活局 | 大蔵省印刷局 | 2002年, 1340円 (約) |
| その他 (プリント等) | 随時 | | | |